「希少糖分子の老化に伴う脳内蓄積および認知症発症との関連解明」
に関する情報公開

当センターでは下記の研究を実施しています。この研究の研究対象者に該当すると思われる方のご遺族で、本研究に協力されたくないと思われた場合には、問い合わせ担当者まで直接ご連絡ください。また、該当すると思われる方で、研究内容についてよく知りたいと思われる方は、お問い合わせください。研究の守秘義務および個人情報の保護に反しない範囲で出来る限りご回答させていただきます。研究に参加されない場合でも不利益な扱いを受けることはございません。また、本研究により個人を特定できる情報が外部に出ることはありません。

●研究の名称
希少糖分子の老化に伴う脳内蓄積および認知症発症との関連解明

●研究の対象
2001 年 7 月～2020 年 3 月に病理解剖を施され、東京都健康長寿医療センター高齢者ブレインバンクに登録された方の内、亡くなられたときに 85 歳以上で認知症があった方、85 歳以上で認知症のない方、50 歳から 64 歳で認知症のない方。

●研究の期間
2020 年 7 月から 2021 年 3 月まで

●研究の目的
希少糖分子である Neu5Gc は記憶の障害因子であり、ラットでは老化に伴って海馬に蓄積する。ヒトでの Neu5Gc の老化に伴う脳内蓄積と認知症発症との関連を解明する。

●研究の方法
Neu5Gc やアミロイドの定量、Neu5Gc が含まれるタンパク質及び脂質の同定を、高速液体クロマトグラフィー、免疫組織染色、ウェスタンブロッティング、薄層クロマトグラフィー、ELISA を用いて行う。認知症の有無、年齢で結果を比較する。老化に伴う増加、または認知症発症に伴う Neu5Gc の発現増加が認められた場合には、アミロイドの定量や Neu5Gc が含まれるタンパク質及び脂質の同定を行う。

●研究に使用する試料・情報
非認知症中年期（10 検体）および非認知症高年期（12 検体）、認知症患者高年期（12 検体）症例の死後脳検体（前頭葉）

●研究組織
東京都健康長寿医療センター　神経病理／高齢者ブレインバンク　齊藤祐子

村山繁雄

静岡県立大学　　南　彰（主たる研究者）

●問い合わせ先
〒173-0015　東京都板橋区栄町 35 番 2 号
東京都健康長寿医療センター
高齢者ブレインバンク/神経病理 齊藤祐子（研究責任者）
電話 03-3964-3241 内線 4419（平日 9:00~17:00）